

白石綿アスベストの規制に関するカナダ政府の見解

要約

アスベストのすべてのものが危険物質であることは疑いのないところです。しかし、カナダ政府は、作業員及び公衆を保護するためにアスベストの使用を適切に規制できると考えます。作業員の健康及び安全を確保する為製品使用を規制する最も厳しい手段となるアスベストの全面禁止は必要ないと考えます。カナダ政府は、健康及び安全に関する問題についての意思決定は、徹底した科学的証拠に基づくことが重要であると考えます。白石綿アスベストの健康問題に関する科学的証拠は、権威のある国際機関、例えば、世界保健機構及び国際労働機関によって調査されています。その調査は非常に包括的であり、適切な管理の下での使用に賛成しています。

背景

アスベストの使用に関する危険は、長年論じられてきました。しかし、昔と今では作業方法及び用途が異なることに注目しなければなりません。この点で、アスベストの使用禁止論は、第二次世界大戦後の経験に関係しています。当時アスベストは不適切な用途に使用され、その作業条件も劣悪でした。次のことにも注目しなければなりません。高濃度のアスベストにさらされてから発病するまで15～40年の潜在期間があるので現在表面化している健康問題は、アスベストが難燃剤、断熱材料、遮音材料として1970年代まで乱用されていたことに起因しています。これらの製品及び低濃度であっても砕けやすい製品にアスベストを使用することは禁止されました。なぜならアスベストの埃にさらされないよう作業員を保護できなかったからです。現在の用途は異なります。アスベスト繊維はセメント又は樹脂組織に固められ、例えば、白石綿アスベストセメントの管、板、プレート、ブレーキパッドになり、安全に生産され使用されています。

アスベストの噴霧は数十年前に禁止されたにもかかわらず、建物の場合には潜在的な危険がまだ残っています。アスベストに接触する電気工、鉛管工、外装工などは保護を確実にするよう十分に訓練されなければなりません。過去に間違っ使用したことから起きた問題は、使用を禁止しても解決となりません。アスベストを全面禁止すると、類似の性質をもつ代替品を使用することになりますが、その代用品にも危険性があります。例えば、耐火セラミック繊維は、アスベストの代替品として炉や管の絶縁に使用されましたが、後日アスベストより危険であると分かりました。

潜在的に危険なすべての物質に対しては、カナダ政府は、その使用方法を管理してゆくという方向で対処すべきと考えます。それによりアスベスト代用品が今

までと同じ過ちを犯すことを未然に防げるからです。これの実行にカナダは、アスベスト専門家による1998年世界保健機構委員会の結果に従っています。この委員会は、アスベストの世界的禁止は勧告しておらず、代わりに白石綿アスベストの代用品についての経済性・実用性について、又比較的低濃度の場合の白石綿による発癌性の危険について更なる研究をする必要があると言明しています。

カナダ政府はアスベスト繊維に発癌性があると認めるカナダ学士院と同じ意見を持つものです。作業者及び公衆が有害なアスベストにさらされないよう保護するために、カナダ政府は1983年に管理された使用というアプローチを採用しました。"管理された使用"とは、アスベストを安全に取り扱うため適切な規制を実施し、アスベストにさらされることを厳しく管理することです。アスベストにさらされその後の危険を適切に管理できない場合(例えば、建物に噴霧されたアスベストのように)、それら特定の場合における使用が禁止されます。カナダ政府は、カナダにおけるアスベスト及び他の危険物質(代用品繊維を含んで)の規制に対する現在のアプローチが、作業者及び公衆の保護を確保するのに適切であると考えています。

国際的な場においては、カナダ政府の目的は、アスベストを含むすべての鉱物及び金属製品の市場アクセスを維持し、市場におけるすべての製品に平等な競争条件を提供することです。そうすることによって、カナダ政府は、他の諸国もカナダで行なっているように、健全な科学的根拠に基づきケースバイケースのアプローチで規制するよう推奨しています。国によってはアスベストに関する決定を、経済上の関心(ローカルな代用製品の保護)又は他の材料の要因だけで下していません。重要なことは、カナダ政府はアスベストの使用を促進しているのではなくその安全な使用方法を促進していることにあります。

この点に関して、カナダは、白石綿アスベストについて、管理された使用のアプローチを従来から促進してきました。アスベスト協会(政府、業界、労働組合三者機関)の設立以来、健康及び安全の教育・訓練を世界の主なアスベスト使用国に提供してきました。貿易の面では、カナダ政府は、1997年3月にカナダの白石綿業界と覚書に署名し、同業界が白石綿アスベストの責任ある使用方針を実施するのを支援しています。この方針は、白石綿の主要生産・輸出国である六か国(ブラジル、カナダ、ロシア、南アフリカ、スワジランド及びジンバブエ)を含む産業構想です。責任使用方針の最終目標は、アスベストの輸出先を、アスベストの国家規制を順守する会社、又は順守して経営すると誓約した会社に限定することです。この方針は、1986年の国際労働機関(ILO)協定162の原則及びILOの定めるアスベスト使用安全基準を認めて受け入れたものであり、この基準はアスベスト使用の安全のための最低労働条件を定めています。

この覚書によって、カナダ政府は、すべてのクライアント諸国の作業者に安全な作業環境を確保することを支援しています。カナダは開発途上国において引き続き積極的に活動します。すなわち教育・訓練プログラムを提供し、安全な使用のための適切な規制及び方針の開発を支援します。

今日、作業慣習が著しく改善され、また作業者の保護が増加し、その結果白石綿関連の職業の危険は容認できるレベルまで下がっております。カナダ政府は他の利害関係者(貿易パートナーを含む)と引き続き緊密に協力し、カナダ及びクライアント諸国の作業者に対し安全な作業環境を確保してゆくことを確認するものがあります。